

夕陽會報



第200号 五稜郭の夜景



◇ 巻頭言 ◇

夕陽會報二百号に想う

会長 橋田 恭一 (昭和39年卒)

「戦いは破壊に非ず創造の一步なり」
新しき東亜の建設者である日本は、あらゆる分野に於いて、展開と前進が始められねばなるぬ。これは昭和十三年十二月三十日発行、同窓会報創刊号の巻頭言の一節であり、発行責任者桑山誠一氏(大正八年卒・当時附属小学校勤務)の手になるものである。

創刊号が発行された昭和十三年は、前年盧溝橋事件をきっかけに日中戦争に突入り、国家総動員法が成立した年である。ヨーロッパでは第二次世界大戦開始前年である。当時の学校の様子を、昭和十二年入学の小野専一氏(昭和十七年卒)は、夕陽會報百号に「しばしば授業はカットされ、講演会や、校内弁論大会が開かれ時局の重大性とわれら師表としていかにあるべきかという意識啓蒙の訴えが多く述べられた。有名人では中野正剛がきて講演されたことを思い出す。」と記述している。我が国が風雲急を告げる時局の中で桑山先生の熱意に呼応して多くの会員諸氏が玉稿を寄せている。

以来、七十余年、同窓会報は夕陽會報と名称を変え、年二、三回の発行を重ねて、この度二百号を数えるに至った。改めて桑山誠一氏をはじめ、編集に携わった関係者の皆様方の発想と努力に心からの敬意と感謝の意を表したい。
師範学校の開校当時の様子は夕陽會報号外(昭和五十一年発行)「母校創立六十周年回顧特集」に記述されている。

町田利兵衛氏(大正七年卒・第一回生)によると、大正三年四月八日の入学式当日、西部地区の蓬来町から出火した火災は瞬く間に延焼した。和田校長は大火の恐れありとのことで消火作業の手伝いにかけるよう呼びかけたことや、初めて

の運動会の様子などを細やかに記述している。師範学校としても手探りの学校経営を行っていたことが偲ばれる。

会報は、再読すると、その時々々の社会や世相等を映し出す鏡になっている。巻頭言や随筆・報告等からもその見方や考え方を触発され、自らの生き方に反映された方々もいたであろう。私も主張や思いに刺激を受け、活動のエネルギーに変えた一人である。

まさに、会報は、人と人との絆を深め、夕陽会の活動の歴史を繋ぐものとなっている。この伝統は、函館校が存在する限り、後輩諸氏に連綿と継承されていくものと確信している。

さて、北海道函館師範学校としてスタートした本学が、社会や時代の要請を受けて校名の変更とともに、その使命も大きく変化してきた。平成十八年度の北海道教育大学の学科再編は函館校にとって開闢以来の大変革となった。

当然、同窓会の在り様も見直しが必要である。そのひとつは組織強化の取り組みである。母校に寄せる思いや考えを大切にしつつ、結果として会員の力量形成に結びつくものでありたい。

とりわけ、今年三月の卒業生は新課程一回生であることから、教職外の卒業生が多くなる。彼らの願いを真摯に受け止め、卒業同期や研究室単位の組織づくりも急務となる。今後、夕陽会は新しい道を歩むことになる。

そうした中で夕陽會報は同窓意識を強固にする媒体として、一層の機能強化が必要である。その際、夕陽会の目的が会員の親睦と資質の向上、そして母校への支援、更には地域の振興・まちづくりにあることを肝に銘ずべきである。

榮譽に輝く同窓



○瑞宝中綬章

皆様、本当に、ありがとうございます

函館市 尾形 猛
(昭和24年卒)

二〇〇八年秋の叙勲で私は候補者に挙げられたが候補者多数ということで翌年の再審となった。そんなこともあって、そんな物どうでもいいじゃないかと、思っていたが、二〇〇九年春の叙勲で「日本国天皇は尾形猛に瑞宝中綬章を授与する」という簡潔な勲記を見て深く感動した。そして、薫陶を賜った外山定男先生はじめ母校の恩師諸先生に深く感謝した。また私の未熟な講義を熱心に聴いてくれ、私の大きな励みになった学生諸君に感謝した。何という私は幸せ者でしょう。勿



○瑞宝双光章

叙勲を拝受して

函館市 千葉 貫一
(昭和15年卒)

この度は図らずも、平成二十年秋の叙勲拝受の栄に浴しました。これは、夕陽会をはじめ、私を支えて下さった多くの方々のご指導やご協力の賜物と深く感謝しております。

思えば昭和十五年、母校の函館師範学校を卒業し、当時の北見西武華尋常高等小学校の訓導にはじまり、木古内釜谷小学校までの四十一年の教職生活。その間、よき先輩、同僚、後輩に恵まれ、暖かいご指導のもとに職を全うする

体ない思いです。またこのような記事を書きある夕陽会報に載せて頂くのも有り難いことです。また私事で恐縮ですが、私を常に献身的に支えてくれた妻康子（教育大附属幼稚園園歌の作詞者）に深甚なる感謝を捧げます。最後になりましたが夕陽会の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。皆様、本当に、有り難うございました。

尾形様は一月二十二日ご逝去されました。つつしんで、心よりお悔やみ申し上げます。

ことができず、退職三十年になろうとする今、私を支えてくれたものは、生徒をはじめとする出会いであり、同窓の方々の援助であったと回顧しております。

それだけに、今後も叙勲の榮譽に恥じることのないよう、健康に留意し、皆様方のご厚情を大切に、精進して参りたいと考えております。最後になりますが、夕陽会ますますの発展をお祈りいたします。



○瑞宝双光章

叙勲の栄に浴して

伊達市 関坂 昭夫
(昭和29年卒)

この度平成二十一年秋の叙勲で、図らずも受章の栄に浴し、身に余る光栄に感激いたしました。早速夕陽会会長はじめ先輩、同僚の多くの方々より、ご鄭重な祝意を戴き、感謝の気持ち一杯です。これも偏に皆様方のご指導、ご支援の賜物と深くお礼を申し上げます。

十一月九日、国立劇場にて、勲記・勲章の伝達を受け、引続き皇居に参内し、豊明殿において、陛下の拝謁の栄を賜り、親しく、お言葉をお戴き感激の極みでございました。

顧みますと、昭和二十三年母校を卒業、



○藍綬褒章

藍綬褒章の栄に浴して

木古内町 久保 照子
(昭和28年卒)

この度は図らずも平成二十一年秋の褒章に際しまして、更生保護功勞により藍綬褒章の栄に浴しました。早速夕陽会会長橋田恭一様よりご丁寧なるご祝詞を戴き感謝申し上げます。少ない教職の経験の中で、夕陽会とは縁も薄くなっていた

今日この頃でありましたので、祝意を戴いた時は有難く感激いたしました。昭和六十一年保護司を拝命して現在に至っております。当時近所の木古内町町議さんの後任として推薦して戴いたので

教職生活を四十年と退職後は市教委嘱託の三年でしたが、恵まれた多くの出会いに支えられて職責を全うできましたこと感謝しております。

なかでも、昭和四十八年度より複式校六校の児童を集めての共同学習（体育科など）では、町理事者、町教委、全教職員に地域PTA、住民に依るご理解と熱意が児童の瞳を輝かせたのだと思いに残っています。終りに、夕陽会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝を祈念いたします。

す。元教職員・地域の婦人会の代表だったからなのでしょう。分校で学んだ教職の経験を生かし、地域の為に役立つ事はなにか。こんな思いが多々ありましたが何にもまして人間が好きという思いでした。これまで続けられたのも、保護観察所の観察官、先輩保護司さんのご指導や地域の方々や家族の協力であったと感謝しております。これからも健康であれば違った形で人様の為に働きたいと思っております。

す。元教職員・地域の婦人会の代表だったからなのでしょう。分校で学んだ教職の経験を生かし、地域の為に役立つ事はなにか。こんな思いが多々ありましたが何にもまして人間が好きという思いでした。これまで続けられたのも、保護観察所の観察官、先輩保護司さんのご指導や地域の方々や家族の協力であったと感謝しております。これからも健康であれば違った形で人様の為に働きたいと思っております。



吹奏楽一筋

○音楽教育功労賞

函館市 寺 中 哲 二

(昭和31年卒)

この度、平成二十年度の音楽教育功労賞を頂き、身に余る光栄です。これは偏に多くの先輩や同窓の皆様のご指導と、中学・高校・大学と勤務した教え子の皆様の支えによるものと、深く感謝しております。

東京で行われた表彰式には体調不良で出席できませんでしたが、他の六名の受賞者の足跡を拝見し、あらためて賞の重みを感じさせられました。

今思えば吹奏楽一筋ともいえる人生を歩んできました。高校生のときに吹奏楽部を立ち上げ、大学に進み後半二年間は東京藝術大学委託生としてトロンボーン

と指揮法を学びました。卒業後中学、高校、大学の教員としてそれぞれに吹奏楽部を立ち上げ、一般バンドも含め五つのバンドの生みの親となりました。

特に母校の北海道教育大学函館校吹奏楽部が全国大会出場常連校として育ち、多くの逸材が巣立って道南のみならず、全道全国で活躍されていることに大きな喜びを感じております。

夏に教え子を中心に心温まるお祝いの会を催して頂き、心に残る思い出となりました。

終わりに、会員の皆様へ感謝し、本会のご発展を心から願っております。



教え子と音楽仲間へ感謝して

○函館市文化賞

函館市 中 島 眞 之

(昭和39年卒) 函館理容美容専門学校長

この度の函館市文化賞の受賞は、永年にわたる音楽教育と音楽活動に対しての評価を頂いたものと嬉しく思っています。市政「はこだて」での私の紹介は「音楽教育者として」の文言がはじめにあり、きつと教え子たちも喜んでくれたことと思います。

私の音楽活動は吹奏楽指導に始まり編曲や作曲、そして市民オーケストラやジュニアオーケストラの創設に携わり、団の運営と演奏活動をしてきました。その活動は常に教え子たちと一緒に、彼らに勇気と活力を貰いながら歩みました。

三十台半ばには吹奏楽から交響吹奏楽へと指向を図り、何時しか函館にもオーケストラをという夢を抱くようになりました。その願望は村本淳一氏(現函館市民オーケストラ団長、S46卒)との出会いで一気に強まり、吹奏楽活動をしている教え子や仲間、更に音大生の教え子にも呼びかけ、支援・協力を得て函館市市民オーケストラは産声を上げました。

この度の受賞は、吹奏楽やオーケストラ活動を共にしてくれた教え子や音楽仲間のお陰であり、みなさんを代表して私に頂いたものと深く感謝しています。



感激を忘れずに

○北海道教育功績者表彰

函館市 長 谷 恵

(昭和47年卒) 函館市立鍛神小学校長

この度、はからずも平成二十一年度北海道教育功績者表彰の栄に浴しました。身に余る光栄であり、改めて、これまで皆様にご指導をいただいた多くの皆様へ心より感謝を申し上げます。とりわけ、夕陽会同窓の方々には、若い頃より公私に渡ってご支援をいただきました。重ねてお礼を申し上げます。

昨年の十二月十六日、札幌において、高原副知事様、平出陽子副議長様をはじめとするご来賓や教育関係者の方々のご臨席のもと、表彰式が行われ、神谷奈保子教育委員長様から表彰状と記念品をい

いただきました。また、前日には、在札の夕陽指導主事等会の皆様へ「祝う会」を催していただきました。わざわざ函館から駆け付けていただいた橋田会長様をはじめ同窓の方々から、お祝いの言葉を数多くいただき、感激いたしました。温かな同窓の心を強く感じた心地よいひとときでありました。

この後も、今回の感激を忘れることなく、努力を続けて参りたいと思っております。引き続きのご指導をお願い申し上げます。夕陽会のますますの発展をお祈りいたします。



遠い母校を心の支えに

○北海道教育功績者表彰

登別市 今 村 裕 昭

(昭和47年卒) 登別市立幌別小学校長

この度の北海道教育功績者表彰に当たり、橋田恭一会長様、中瀬裕義副会長様をはじめ、夕陽会の先輩、後輩の皆様から過分なるお祝いの言葉をいただき心からお礼申し上げます。

本表彰の栄は、私個人にとりましては、この上ない喜びであります。北海道教育委員会が授ける最高の賞であることを考えますと、本当に私でよいのかという戸惑いも正直なところあります。

奉職以来三十八年間、微力ながら小中学校教育並びに教育行政に携わることができましたのは夕陽会の皆様のお導きの

賜であります。

この間、生まれ育った胆振管内はもとより、転勤を重ねた十勝、釧路、日高管内の夕陽会の皆様からいただいたお心遣いには、遠い母校を共通の学舎とした者の絆の強さを実感いたしました。私の人生の歩みに大きな勇気を与えていただきました。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後とも、職務に精励してまいりますので、御指導、御鞭撻をお願いいたします。結び、夕陽会のますますの発展を祈念し、お礼の言葉といたします。



温故知新

○函館市文化団体協議会 青麒章

函館市 島山慶一(惠雨)

(昭和19年卒)

江戸後期から道内俳句の先駆地として函館に俳句文化が根付き、今日の隆盛に至る約二百年の俳壇の歴史を詳細に記録したのが「函館俳壇史録」であり、今回受章の対象となり、函館文化史の中に位置づけられ望外の喜びに浸っている。

先輩の菊地五三氏(S12卒・俳号京路)

と親交があり、氏から函館市と近郊には三十数基の句碑があり、句碑はその俳人の業績を讃えた団体や思慕する人々によって建立されたものであることを知り、これらの人々の足跡や俳壇の歴史の記録の纏めを志し、先達者の聴聞や遺稿の整

理文献との検証を重ね、系統的に編集して上梓したのがこの「俳壇史」である。思えば、現在の事象の中の多くは先人の優れた業績や努力があつてのことであり後塵の我々はそれを肝に銘ずべきであらう。

夕陽会も昨年九十周年の盛大な行事と祝賀会が催され、詳細な歴史を記した記念誌も発行された。これまで築いて来られた先輩諸氏の努力や業績を忘れてはならない。過去を知り、現在の自分の存在に感謝し未来へ継承していく姿勢を失つてはならないと思う次第である。



仲間を支えられて

○全国学校体育研究功労者表彰

函館市 鳴海順二

(昭和48年卒 函館市立湯川小学校長)

この度は、図らずも全国学校体育研究功労者表彰の栄に浴し、身に余る光栄であります。また、受賞に際しまして、夕陽会はじめ皆様から心温まるお祝いの言葉をいただき誠にありがとうございます。心からお礼申し上げます。

昨年の十一月十日、島根県で開催されました全国学校体育研究大会開会式終了後、多くの体育の仲間に見守られ、晴れやかな思いで賞をいただきました。

振り返りますと、函館で体育の全道大会が行われた平成四年、「第一分科会の提言者、鳴海さんに決めたから。」先輩が

未熟な私に試練と活躍の場を与えてくれました。発表準備は思うようにいかず苦労の連続でしたが、この大会を機に多くの仲間と出会い、体育に対する思いを新たにすることができました。自分にとつて、まさに体育人の仲間に入れてもらった瞬間であつたように思います。

今、自分を育て支えてくださいました多くの皆様に、感謝の気持ちでいっぱいであります。どうぞこれからもご指導よろしくお願ひ申し上げます。

夕陽会のみならずの発展をお祈りいたします。



生涯サッカーの楽しみ

○函館市スポーツ賞(功労者部門)

函館市 小山昌吾

(昭和29年卒)

二月十七日、函館市長様から函館市スポーツ賞(功労者部門)を授与されました。夕陽会長様から御祝詞を、函館支部からは祝賀会へのご招待を戴き、身に余る光栄と厚く御礼申し上げます。

私は昭和二十一年春、十五歳で函館市立中学校サッカー部に入学以来サッカーを続けて参りましたが、現役選手を退いてから、函館四十雀サッカー倶楽部でシニアサッカーを四十四年楽しみ、函館サッカースクールで三十五年青少年への普及発展に努めて参りました。サッカーはチームワークが第一です。

同年代の仲間とのチームワークの固い絆に結ばれて、仲良く楽しくサッカーを続けることが出来ました。

近年、日本サッカー協会の方針によって、四十歳代、五十歳代、六十歳代、七十歳代と年代別に全国大会が開催され、同年代で試合が行われるようになりました。私は七十歳代の全国大会に出場し、親睦第一、勝敗第二、生涯現役をスロガンにプレーを楽しんでおります。



函館の顔とスポーツを

○函館市スポーツ賞(功労者部門)

函館市 中村弘

(昭和30年卒)

去る二月、平成二十一年度函館市スポーツ賞、西尾正範市長から授与されました。早速、夕陽会橋田会長をはじめ、多くの方々からご鄭重な祝意をいただき、ありがたく厚くお礼申し上げます。

近代スポーツから健康志向型スポーツを求め、函館の顔となるようなスポーツの普及を模索していたひとりでした。

市民の生活に根ざした生涯スポーツ次の到来に対処、全国的にも注目されているスポーツを道内地域に先がけて導入普及の道を歩み続けたものでした。

導入したスポーツはいずれも広く愛好され、親しまれつつ人気を呼んでいます。この度、函館バウンドテニス協会、スケート協会のご推薦をいただきました。「植えてみよ、花の咲かない大地なし」のこぼを指標に、大輪の花を求め、ともに支え合い、励まし、普及のお力添えの賜ものと感謝の念で一杯であります。

終りに、会員の皆様のご健勝と、夕陽会の限らない、さらなるご発展を心からご祈念申し上げます。

文部科学大臣優秀教員表彰
感激謝



上ノ国町 押見清一
(昭和59年卒)

このたび、文部科学大臣優秀教員表彰を受賞させていただきました。校長先生より表彰推薦のお話をいただいたときは、全くの想定外なことに、「なぜ私のようなものが？」と非常に驚きました。とても名誉なことですが、受賞が決まった今でも何か不相応な感じがしてなりません。二十六年前、楡山管内の上ノ国町早川小学校が教員生活のスタートでした。それから、江差町、乙部町、そしてまた上ノ国町と三町五校で勤務して参りました。その中で、子どもたちや地域の方々、そして同僚の先輩教員からたくさんのお言葉を学ばせてもらいました。月並みですが、その積み重ね無しにして、今回の受賞は考えられません。私を育ててくれた皆さんに感謝です。教員生活もあと十一年と終盤にさしかかり、気力体力の衰えも感じ始めた今日この頃ですが、今回の受賞を励みにして、この楡山の地でもうひと頑張りしようと思っております。

会務報告



幹事長 土谷 敬
(昭和54年卒)

- 《一般会務》
12/22 北海道教育大学学長・理事と5分校同窓会長が懇談する。(札幌)
2/10 北海道教育委員会高橋教育長と5分校同窓会長が懇談する。(札幌)
《支部総会・懇親会・同期会・個展等》
12/26 青森西北五支部総会に土谷幹事長が出席する。(五所川原)
1/6 特別支援学校支部創立十周年記念祝賀会に橋田会長が出席する。(札幌)
6 楽友会(音楽科同窓会)の懇親会が開催される。(函館)
23 後志支部創立九十周年記念懇親会に平田副幹事長が出席する。(倶知安)
23 網走連合支部総会に奥崎副幹事長が出席する。(留辺蘂)
23 日胆ブロック・胆振連合支部懇親会に橋田会長が出席する。(室蘭)
2/5 2 宗谷支部総会激励会が開催される。(稚内)
6 岩手支部総会に橋田会長が出席する。(盛岡)
8 函館市支部顧問会議に土谷幹事長が出席する。(函館)
11 日高支部総会・激励会に橋田会長が出席する。(新ひだか)
12 苫小牧市支部総会に平田副幹事長が出席する。(苫小牧)
13 渡島支部支部長会議に橋田会長・土谷幹事長が出席する。(函館)
13 渡島支部支部長会議に橋田会長・土谷幹事長が出席する。(函館)
16 函館市支部受章祝賀会に橋田会長・土谷幹事長が出席する。(函館)
20 楡山支部「先輩を送る会」に土谷幹事長が出席する。(乙部)

平成二十一年度 研究助成報告

今年度の研究会・研修会等への助成実績がまとまりましたので、お知らせします。(研修部)

- 夕陽会渡島支部 第一回支部役員研修会
○ 夕陽会空知支部「教育講演会」
○ 夕陽会石狩支部研修会
「ふれあいトーク2009」
○ 第五十回 北海道進路指導研究大会 函館大会
○ 平成二十一年度 長万部中学校公開研究大会
○ 北海道教育大学函館校吹奏楽団へ(第五十七回 全日本吹奏楽コンクール(名古屋大会))
○ 豊頃町立豊頃小学校公開研究会
○ 新得町立新得小学校公開研究会
○ 十勝管内教育研究サークル合同研究会
○ 夕陽会小樽支部夏季研修会
○ 第四十七回 北海道国公立幼稚園研究大会(函館大会)
○ 夕陽会上川支部十月研修会
○ 北海道教育大学函館校教育学会 第十五回年会
○ 北海道放送教育研究大会道南・函館大会
○ 駒場小学校外国語活動公開研究会
○ 夕陽会小樽支部冬季研修会

平成22年度

本部総会・懇親会

- ◆期 日 平成22年6月19日(土)
◆会 場 函館国際ホテル
(函館市大手町16-9 ☎0138-23-6161)

平成23年度 札幌開催予定

激励をいただいております。

我が癒し 夕陽讃歌
夕陽讃歌は私の慰めである。そしてすべての同窓にもそうだろう。楽しい時、悲しい時、どんな時にもきつと。歌は平明、明快、素朴そして調和、である。蓋し、土地壑間・人民蕃殖の心なるべし。この製作に当たつたすべてに敬意と感謝を表明する。さあ、明日は何回聞こうか。夕陽よとこしえに。
石狩市在住 昭18卒
山本 喜雄 様
毎回の夕陽会報を読んでいただき、会報作成にあって、激励をいただきました。先輩からのあたたかい言葉に感謝し、会報が二〇〇号から三〇〇号へと続けることができるよう、心をひきしめてがんばっていきたくと思っております。



子どもの未来は限らない

北海道議会副議長 平 出 陽 子
(昭和46年卒)

私は子どもの頃から教師になりたかった。地元の教育大に入学でき、教育実習を終えた頃から、ますます教えることに魅力を感じていた。できるだけ免許は取得し、教員採用試験にも合格し赴任する日を待ち望んでいた。

しかしながら、人生そううまくいかなかった。赴任地が決まったのに、自己都合で断つてから、次の赴任地の連絡がいつこうにこない。

同期達は生き生きと我がクラスの様子を語るし、近くの学校からは子ども達の歓声は聞こえるし……。私の心は落ち込んでいく。初心を貫くためにも、教員採用試験を再受験し、どのような地でも赴任するという固い決意で待機していた。九月に福島中に採用になった時は、本当に天にも昇る気持ちだった。当時の福島中はやんちゃな生徒が多く、新卒の女性教師にとっては少々つらい学校であったが、生徒とけんかしながらも楽しい教師生活であった。その後函館市内に入り、柏野小、湯川小、千代ヶ岱小と歴任し、中学校と障がい児学級、小学校の指導法に違いはもちろんあるが、子どもとの接し方もわかりかけ充実した毎日であった。教師の仕事は天職だと思え、私はこのまま教師人生を全うするものと確信していたのである。

ところが、ところが、議員に出馬しないかの打診が突然あった。「あなたなら出来る」と推されるのだから、それをやる前に出来ないとは何事だ。」と常々言っていた言葉は、そっくりそのまま私に跳ね返ってきた。四ヶ月悩み抜き決心した。快く送り出してくれた当時の子ども達

や保護者の皆さんに恩返しできるのは、当選すること。お陰様で地域の皆さんに支えられて、今年四月で議員生活十九年十九年四ヶ月の教員生活をもうすぐ超えようとしている。

そこで私が言いたいのは、『子どもの未来には可能性が秘められている。』との例がよい例である。本人は教師で人生を終えるつもりであった。まさか自分が議員になるとは考えてもいなかった。クダから、親や教師はその子の人生を決めつけないでほしい。どんな人生が待っているかわからない。

私も教員のレールを基礎に議員になつたが、教育と福祉と女性の生き方の分野だけでなく、視野を広げるためにも多くの人々にお会いし意見を伺った。お話を伺っていると、この問題を解決するには、どんなアプローチで質問を組み合わせるとよいかが見えてくるようになる。現在副議長の任に就かせていただいているが、北海道と他県、更に全国という視野も必要になる。加えて円滑な議会運営の役割も要求される。

道民の皆さんに開かれた議会運営に尽力する私の姿を通し、子ども達が議会に関心を持ってもらいたい。自分たちが主権者として生きるために、必要な一票の重みを感じとってほしい。これは子ども達の問題ではなくおとなの問題である。

輝ける限り未来に生きる子ども達が自信を持って、地域作りに取り組めるためには、私達おとなが生きることのすばらしさを、一生懸命生きた証を子ども達に伝えることが重要なのである。



地方自治体の現場で

函館市副市長 小 柏 忠 久
(昭和46年卒)

母校、函館校では、平成十八年四月に新課程に移行した人間地域科学課程の第一期生が、今年三月には卒業を迎えることになりました。

折り悪しく、景気・雇用状況が大変厳しい中で第一期生の就職ということで、就職支援センターをはじめ先生方は、大変なご苦労をされていると思います。

私は、卒業後、当時としては珍しい進路であった函館市役所職員として奉職し、今日まで四十年間の市役所生活を続けております。入庁当時は、市役所全職員のうちわずか二名の函館校卒でしたが、昨年四月には百十一名を数えるに至り、今では多くの仲間が様々な行政分野で活躍しております。

この間、地方自治体現場での大きな変化は、何と云っても九十年代後半からの「地方分権」という流れであり、さらに昨今の「地方主権の確立」という方向です。つまり、地域の課題は、地域の資源（人・カネ・モノ）で解決し、住民福祉の向上を図ることが求められています。

これまでのような「中央集権型まちづくり」から「地域のことば地域で」という「地方主権型まちづくり」を、地域住民と協働しながらつくり上げていくことが必要になっていきます。

そのような中で、いま地方公務員に求められているのは、多様な住民の声に耳を傾け、住民に寄り添って考え、普通の言葉で話し、行動することが出来る資質

です。函館市役所においても、専門分野（国際・経済・情報など）別試験や民間企業経験者試験、自己アピール（一芸試験）ともいわれております。試験など多様な職員採用方法を探りながら、全国からこのような資質を持つている人材を求め選考しています。二段階の個別・集団面接や集団討論などを通して、他人の意見を素直に聞けるか、チームの一員として

協調しながら仕事を進めていけるかなどを、重視しています。どの自治体も厳しい財政状況から、少数の新規職員採用に止まることを余儀なくされているなかで、地方自治体間において有為な人材の確保を競っているといっても過言ではありません。これは、その自治体職員の資質の優劣が住民福祉の差に密接に繋がっていることからも当然のことであり、また地域主権型まちづくりを進めるためにも、単に勉学が優秀なだけの人材よりも「やわらかい頭」とまちづくりへの「情熱」を持った人材をどの自治体も求めているからです。公務員を目指す学生の皆さん

には、勉学に励むのは勿論のことですが、多くの仲間や市民との交流を深め、「人間力」を培うことが何より必要です。



70年余の歴史を経て 会報200号に到達!



61号 (昭和30年12月7日)



1号 (昭和13年12月30日)



150号 (平成5年7月22日)



100号 (昭和49年6月25日)

活躍する向窓



特別支援教育の充実のために

青森県教育庁学校教育課
特別支援教育推進室指導主事

湯田 秀樹

(平成元年卒)

函館での四年間、私は、数学科や準硬式野球部で、魅力にあふれた教官、監督や仲間にも恵まれ、とても充実した学生生活を送ることができました。

教員生活は、平成元年、青森県の肢体不自由養護学校でスタートしました。大学時代には全く予想もなかった特殊教育の世界でしたが、周りの教員の援助や保護者の厚意に支えられ、何とか務めることができました。

(平成二十年からは、青森県教育委員会の指導主事として障害のある子どもたちの教育に携わることになりました。教員から指導主事への環境と心境の変化は、戸惑いと同時に意欲の高揚であり、新採用当時を思い起こさせるものでした。またそれは、自分なりに特別支援教育の充実に取り組もうという決意でもありました。平成十九年の学校教育法の一部改正に伴って、全国の学校で「特別支援教育」がスタートしました。

それまでの特殊教育を「場の教育」と表現すれば、特別支援教育は「二つの教育」であると言えます。養護学校や特殊学級等の限られた場所だけではなく、幼小中高校などで特別な支援を必要とする子どもたち全てに対して、一人一人のニーズに応じた教育を行うのが基本的な考え方です。つまり、通常学級担当の先生方も特別支援教育の重要な担い手であるということです。

ここで基本となるのは、特別支援教育は、一人一人の子どもを大切にできる教育活動であり、特定の子どものみならず、学級全員が落ち着いて学習できる環境を

整える取組であるということです。

例えば、支援の手立ての一つとして「視覚情報を整理し、活用する」ことがあります。その日の予定やその時間の学習内容をあらかじめカード等で学級内に提示したり、声の大ききの段階を「声のものをさし」として数値化した掲示物を示しながら教師が発問したりしています。

これらの手立てによって、「抽象的なもの」「実際には見えていないもの」が理解できないために具体的な行動がわからなかったり、そのことが原因で不安になったりする子どもたちは、自分自身の行動の目安がわかり、心理的に安心して授業に参加することができそうです。その結果として、学級全体の雰囲気も落ち着くこととなります。

このような支援の必要性が高い子どもたちへの具体的なアプローチは、比較的支援を必要としない子どもたちや、障害のない子どもたちに対しても好ましい影響を及ぼし、学級経営の改善につながる可能性があります。このような考え方を、「教育のユニバーサルデザイン化」と呼ぶ専門家もいます。幼小中高校の先生方にとっては、発想の転換であるかもしれませんが、今後の学校教育を考える上で重要な視点であると言えます。

毎日の学習活動を心待ちにしている子どもたちや熱意をもって指導に当たっている先生方の目線に立ち、全ての学校において、特別支援教育が当たり前のようになり、特別支援教育が当たり前のようになり、微力ではありますが力を注いでいきたいと思っています。



地域とともに

函館市教育委員会

佐々木 志帆

(平成18年卒)

「おねえさん！一緒に折り紙しよう」

元気に声をかけてくれる子ども達。生き生きと輝く目、大きな歓声、喜びを体で表現するたくさんの子ども達に囲まれて一緒に遊んでいると、今までにない充実感と満足感に浸ることができました。私自身が童心に帰った思いも同時に味わいました。これは、放課後の学校施設を利用し、地域ボランティアの方々から子ども達の活動をサポートする「放課後子ども教室」に私も参加させていただいた体験です。テレビゲームばかりしているような印象が強い現代の子ども達が、楽しそうに昔の遊びをしている姿が、私にはとても印象的でした。

この様な事業は、町会や子ども会、地域ボランティアの方など、本当に多くの方々に協力いただきながら行っています。自分の住んでいる町を良くしたいと地域活動に参加されている方は多く、この様な活動は大きな力となり、地域社会を動かしていることを強く感じます。

私は大学を卒業して四年になり、現在、函館市役所で働いています。配属先は教育委員会の生涯学習課で、青少年の健全育成の推進に関わる事業を担当しています。青少年の健全育成という大変な仕事ですが、日々の仕事はデスクワークだけではなく、実際に地域に出て、地域の方と一緒に活動する機会も多くあります。

私はこの仕事に就くまで、地域がこれほど多くの方の活動に支えられていると

いうことを全く知りませんでした。同時に市役所の仕事は、地域住民の方々の理解と協力のもと、私達が一緒に活動することで成り立っているのだということを実感しています。

大学卒業後、函館で地域に関わる仕事があったらと思っていて私は、地域密着のタウン情報誌の発行をしている会社に就職しました。

転職を決意したのは、「もっと大きな視野にたつて、函館と関わっていきたい」という思いが強くなったからです。

この仕事に就いて二年。当初は、運良く市役所に入ることができたものの、教員免許も持っていない私に教育委員会が勤まるのかと不安でいっぱいでした。しかしその反面、大学で学んだことがなにか活かせるかもしれないと嬉しくも思いました。

現在は、日々勉強の毎日です。まだまだ未熟な私ですが、函館が地元ではないからこそ、このまちを客観的に見ながら役に立つことができるのではないかと思っています。

生まれ育った秋田を離れ、函館の教育大学に通ったことも、教育に関わる今の職場に配属となり函館で働いていけることも、何かの縁だと思えます。

今こうして教育に関わる仕事をさせていただいていることを幸せに感じています。せっかくいただいたこの縁を、これからも大切にして、函館の為に力を尽くしていきたいと思っています。



函館大谷高校に勤務して

和泉明大

(平成15年卒 函館大谷高校教諭)

私が教員として勤務して七年、大谷高校に勤務して四年になります。

小学校、中学校、高校、と勤務しましたが、自分には高校の教師が一番あっているように思えます。

就職に、進学にと高校生活は人生の中で最も重要な時期なのではないでしょうか。そのような時期に子供達を指導する責任の重さを日々痛感しております。

大谷高校は教師と生徒の仲がとても良く、休み時間には生徒が職員室を訪れ、悩み事を相談したり、雑談をしに来ます。その中で生徒の様子に気を配り、どのような状態なのかを確認し、その後の指導に生かします。

また、授業もみんな積極的に発言し、楽しい雰囲気です。

生徒から、『大谷に来てよかった。』と聞くことが最近多くなりました。理由を聞くと、『学校が楽しい』のだそうです。

入学当初は暗い顔をしてうつむいていた子達が、三ヶ月も経つと、笑顔いっぱい放課後友達と遊んでいたり、元氣いっぱい挨拶したり、と本当に楽しくなっています。それを見ると、私まで嬉しくなってきました。

私は英語を教えているのですが、英語に苦手意識を持っている生徒はとて多く、そのため、いかにわかりやすく教えるかということに苦心しております。

私が授業をする上で心がけていることは、基礎基本の徹底反復です。英語は積



み重ねの教科なので、一度躓くとなかなか立ち上がれません。だから、一つの文法事項をしつかりと反復練習させた上で、次に進むようにしています。

やはり全ての生徒に完全に理解させるのは難しいのですが、『英語がわかるようになった』、『好きになった』、『いつも三十分しかとれなかった英語が八十分になった』、などと聞くと嬉しくなります。単純な私はその言葉に励まされ、がんばろうという気持ちになります。

これからも『いい教師とは何か』と、自問自答しつつ、試行錯誤しながらがんばっていききたいと思えます。



異郷から思う「函館」

橋田孝

(平成9年卒 岩手県滝沢村立滝沢小学校教諭)

私の出身地は埼玉県ですから、「異郷から思う」という言葉は、的外れなのかもしれない。しかし、北海道に憧れ、北海道に骨を埋めようと思ひ津軽海峡を渡った私にとって、「函館」は、間違いなく第二の故郷なのです。

しかしながら、縁あって岩手県に移ることになり、今は、テレビや雑誌で目にする「函館」の文字を懐かしく眺める日々を送っております。

さて、先日夕陽会岩手県支部総会が盛岡市で行われ、参会して参りました。ここは、顔なじみではない方とも「函館」「夕陽会」というキーワードを口にするだけで話が弾む素晴らしい場所でした。会に参加している全ての人が「函館」に思いを寄せてきたからこそだと感じています。函館という街はそれほど魅力的な街なのだということを会に参会して再認識することができました。

会に参加しながら、私が在籍した平成五年度から八年度までの函館のことを思い出していました。

当時、私は養護学校教員養成課程に在籍していましたが、この先輩方は本当に素晴らしい方々でした。今やすっかり定着している障がいのある子どもたちのためのサマースクールの礎を築いている方々で、大変精力的に活動している先輩方でした。私など全く力になれませんが、この諸先輩方の頑張りや脳裏に焼き付いているからかもしれません。

また、私は硬式野球部にも在籍していません。チームの力はさほど高くはありませんでしたが、毎年二回、旭川近郊の愛別という街まで遠征に出かけリーグ戦

を戦っていました。この野球部は、先輩が良く面倒を見てくださいました。食事にもよく連れて行ってもらいました。このような経験は、後輩や年下の者に優しくすることの大切さを知る良い経験でした。高校野球から離れ、野球の楽しさを再認識するとともに人間としても随分と成長させていただいた素晴らしい野球部だったことを思い出します。

さらに、同期の友人にも随分と恵まれました。学生時代に仲が良かったのはそのとおりなのですが、今でもこの同期の活躍を聞いて、私も身が引き締まる思いです。例えば、一人は少年サッカーを教え、先日フットサルの全国大会に行ってきました。一人は同じ岩手県内で、障がい児・者のために親身になって相談に乗っています。これら友人の活躍を耳にするたびに、「自分も頑張ろう。」という気持ちが高まります。

このように函館校では多くの財産を手に入れることができました。本当に素晴らしい母校です。

今となつては、函館に足を運ぶ機会はないかな私から函館に住んでいらつしやる皆様にお願ひです。

私たちがよき時代を過ごした母校のある街・函館をいつまでもいつまでも美しく魅力ある街にしていきたいと思います。

私たち夕陽会岩手県支部は、現在四百人近くの会員がいるということです。なかなか大勢が集まる機会はありませんが、少しずつでも「夕陽」の輪を広げながら、私たちの母校・教育大学、そして心の故郷である美しい街・函館を支えていきたいと思います。



夕陽会特別支援学校支部創立十周年 記念事業をおえて

支部幹事長 吉野隆宏
(平成2年卒 附属特別支援学校中学校支部主事)

平成二十二年一月六日、KKR札幌におきまして、北海道教育大学夕陽会特別支援学校支部の創立十周年記念式典・講演会・祝賀会を開催しました。これまで御支援いただきました夕陽会の本部並びに会員の皆様に感謝するとともに、夕陽会報にて報告をさせていただきます。

【記念式典】

夕陽讃歌斉唱、島津彰支部長の式辞の後、御臨席を賜りました橋田恭一夕陽会会長から御祝辞をいただきました。多くの皆様方からの祝電・祝文が披露されました。



島津支部長から出席された別府亮次氏(第二代支部長)、岩尾正夫氏(第三代支部長)、二本柳隆通氏(第四代支部長)に感謝状と記念品が贈呈されました。

【講演会】

講師は、特別支援学校支部副支部長で北海道伊達高等養護学校長の木村宣孝氏(昭和五十七年卒)でした。木村氏は、昨年三月まで神奈川県久里浜にある国立特別支援教育総合研究所の統括研究員を務めており、学習指導要領の改訂やキャリア教育の推進など特別支援教育にかかわる中心的な役割を担っていました。講演の中で全国的な最新情報をお話しいただき、貴重な研修の場となりました。

支部長のあいさつの後、橋田夕陽会会長の御祝辞をいただき、十周年を振り返り、ともに祝杯をあげました。

【祝賀会】

また、参加者全員が近況報告をし、OBの先輩からは、支部創立前後の裏話や退職後の新たな楽しみなどユーモアたっぷりにお話しいただき、若手からは、先輩の築いてくれた伝統を引き継いでいく決意が述べられ交流を深めました。



『特別支援学校支部十周年記念誌から』創立十周年を機に特別支援学校支部創立十周年記念誌を発刊しました。その中から、島津支部長がまとめた支部の歩みについて、ご紹介します。

「幾多の先輩の方々による不断的努力の積み重ねがあって、その上に現在の特別支援学校支部があり、支部設立以前の組織的な活動の積み重ねは十八年間に渡ります。」

一・黎明期・特殊教育夕陽会の創設

(昭和五十二年～昭和六十四年)北海道教育委員会は、昭和五十二年八月に特殊教育課を新設し、昭和五十四年の養護学校の義務制に伴って全国的に高い評価を得た施策(道立特殊教育センター)の設置、養護学校・高等養護学校の

新設、特殊学級の増設等)を推進しました。その間、夕陽会会員が随所で要職を担い、特殊教育課の課長に三名(中山素水(昭和二十四年卒)、田中俊也(昭和二十九年卒)、昭和六十二年に初代の道立特殊教育センター所長、小本毅(昭和十二年卒)、課長補佐・主幹に三名(佐々木邦俊(昭和二十四年卒)、佐藤一雄(昭和二十九年卒)、小笠原愈(昭和三十五年卒)、平成八年に道立特殊教育センター所長)が就任しました。

また、北海道教育委員会の特殊教育指導班、道研教育相談研究室、北海道中央児童相談所障害児相談室等で澤田三尾(昭和三十一年卒)、橋本博(昭和三十三年卒)、曲淵信彦(昭和三十三年卒)、棚岡彦昭(昭和三十三年卒)、松本征八(昭和四十一年卒)、佐藤義昭(昭和四十四年卒)らが要職を務めました。

昭和六十一年には、当時の本部幹事長・小林信夫(昭和三十一年卒・附属養護学校第二代副校長)と夕陽指導主事等会会長を六年間務めていた小笠原愈の連携によって「北海道特殊教育夕陽会」が発足しました。原兼光(昭和十六年卒・元特殊学校長会会長)、石川俊郎(昭和二十三年卒)らを顧問に、校長・教頭の参加を得て一層の組織化を図りました。

二・発展期・夕陽会特殊教育専門部会

(平成元年～平成十年)

北海道教育委員会の特殊教育課が小中特殊教育課に発展する中で小笠原愈指導主事、橋本博指導主事、佐藤義昭指導主事、高橋裕指導主事(昭和四十八年卒)、福井一之指導主事(昭和五十四年卒)、そして道立特殊教育センターでは、酒井宏三教育課長(昭和四十年卒)、島津彰室長(昭和四十八年卒)、小本賢二室長

(昭和五十二年卒)らが、各学校の会員と連携を深め、研修に努めていました。こうした中、当時の夕陽会本部安島進会長の指導のもと、平成七年に「夕陽会特殊教育諸学校部会」に発展し、平成八年に「夕陽会特殊教育専門部会」として本部会則の細則第四条に位置付けられました。平成十年には、事務局を道立特殊教育センターから附属養護学校(現附属特別支援学校)に移しました。

三・充実期・夕陽会特別支援学校支部

(平成十一年～平成二十年)

平成十一年に支部結成の準備を進め、平成十二年の本部総会をもって正式に「夕陽会特殊教育諸学校支部」として承認されました。初代支部長・手代木莊司(昭和四十年卒)、第二代支部長・別府亮次(昭和四十二年卒)、第三代支部長・岩尾正夫(昭和四十三年卒)、第四代支部長・二本柳隆通(昭和四十年卒)。

現在は、第五代支部長・島津彰(昭和四十八年卒・函館聾学校校長)のもと「夕陽会特別支援学校支部」として福井一之教育指導監、磯貝隆之主幹(昭和五十六年卒)、伊藤友紀指導主事(平成二年卒)、特別支援教育センター室長・太田千佳子(平成四年卒)、同研究員・前田利久(昭和六十年卒)、同研究員・北嶋公博(平成三年卒)など多数の人材を輩出し、本道の特別支援教育をリードしており、先輩の築いた伝統を引き継いでいます。





後志夕陽会だより

後志支部長 平野雄二
(昭和49年卒 倶知安町立倶知安小学校長)

後志夕陽会会長をお引き受けして十ヶ月になろうとしています。今年度は、夕陽会本部に遅れること一年、後志夕陽会は、創設九十周年を迎えております。一月に実施しています勇退者感謝の会とともに、創立九十周年記念懇親会を多くの先輩諸氏にも参加していただき、開催したところです。本部より副幹事長の平田新次郎様、倶知安町教育委員会教育長小野寺満様、また、夕陽会小樽支部長内山哲男様、副支部長木村公全様をお迎えして、有意義なひと時を過ごすことができました。改めて創設時の苦労を顧みて、感慨にふけ、感謝の念に満たされました。名実ともに後志教育の牽引的立場にあつた有能な役員の皆様のご尽力によって、昭和六十年代には、二百名を超える会員数となりました。その後、減少傾向が続ぎ、現在百四十余名程となっています。また、後志管内での管理職の三割程を夕陽会が占有していることも、後志教育への貢献の大きさを示すものといえます。ただ、今後の会員の確保に向けて、情報交流を活発にし、教職以外の同窓会員の掘り起こしを働きかけていき、組織の維持・拡大に努めていく必要があります。

現在、活動の充実を図るべく、管内を四つのブロックに分け、事務局持ち回りとして研修会を開催しています。なお、講話の講師には、各町村の教育長に依頼し、各町村での教育行政の取組状況や教育課題等について提言をしていただいております。膝を交えての懇親によって、有能な人材のアピールにも一役買っているところです。さらに、年代別の研修会(臥牛会・振起会)も準備し、会員個々のライフステージに合わせた特色ある、工夫を凝らした内容の研修活動にも取り組んでいます。

また、今年度は、本部主催の「明日の教師養成塾」が倶知安会場で開催されました。教員を目指す者にとっては、願ってもない機会、教育の動向や今日的な課題について熱心に学んでいました。講師を務めていただいた夕陽会参与札内征男様、副幹事長・組織部長奥崎敏之様には大変お世話になりました。せっかくの貴重な機会でもあり、夕陽会員の各校長へ他大学卒業生をも受け入れる積極的な参加を働きかけて、成果を実感した次第です。返す返すも学ぶ意欲に富んだ次世代を担う教育者の育成に門戸を広げる夕陽本部の温情と懐の深さに敬服するばかりです。

かつて本部中瀬裕義副会長が語った言葉を想起することがあります。「ためになる夕陽会、困った時の夕陽会」他支部と同様、若年層の会員は減少傾向にありますが、今後も得るものが多い魅力ある組織づくりに努めていく所存です。



岩手支部便り

岩手支部長 田面木茂樹
(昭和48年卒 奥州市立水沢小学校長)

プロ野球西武の春季キャンプが始まり、土曜、日曜は千人を越す大勢のファンで、キャンプ地の宮崎は、にぎわっているそうです。そのお目当ては、岩手花巻東高校の雄星投手です。

この黄金ルーキーに県民も元気ももたらしている最中の二月六日、第二十六回岩手支部総会を盛岡市の「エスポワールいわて」で開催しました。当支部の十支会から二十五名の会員が集いました。

本部より橋田会長をお迎えし、母校の現状や函館市の様子などについてご講話をいただきました。例年、各支会で活躍なさっている方などからお話を頂戴していますが、今回、函館のお話をたっぷり拝聴できたことは大変有意義でした。

懇親会では、橋田会長のお兄様である元岩手県教育委員会教育長の橋田純一様にご出席を賜りました。平成七年度総会以来二度目の出席となり、「夕陽会員となり、今後も兄弟で参加します」という笑いも起こるなど、和やかな雰囲気の中で進行していききました。

また頼もしいことには、田中則夫先生(昭和二十八年卒前上磯町教育長)が陸前高田市に転居し、顧問をしております。当日もご息女金ゆかり先生(昭和五十六年卒)と出席しております。さて、今回は顧問の及川悌三郎先生(昭

和十六年卒)の叙勲を皆でお祝いいたしました。及川先生は、平成二十年七月一日、瑞宝双光章の栄に浴されました。昭和五十九年に岩手支部を創設し、私がその後を受ける平成十六年まで支部長を務められました。当支部会員全員が尊敬する偉大な先輩であります。及川先生の叙勲は、岩手夕陽の喜びと誇りでもあります。また、叙勲のその年に及川先生は八十八歳になり、青史社より『句集 米寿の薔薇』を出版されました。

「米寿祝ふ薔薇三十本けふ開く」岩手支部を創り、さらに新しいものを求めていく先生の叙勲と出版をお祝いすると共に、今後も夕陽会の後輩を見守っていただきたいという思いが会場いっぱいに溢れました。

私が支部長に就任し六年が経過しました。①本部との深い繋がりが ②会員の親睦交流と研修 ③集会の地域持ち回り開催 を重点にしてきました。

本部と各支会の協力もあり、少人数ながらも毎年実施しております。今回の総会には平成二十一年卒の会員も参加しました。

来年度は「平成」生まれが教員に採用されます。「若手会員の積極的な参画」も重点に入れ、当支部の組織を構築したいと思っております。

前納会費納入会員名簿追加分

本間 秀昭 北斗 昭46 安住 範男 札幌 昭48
田中 隆 札幌 昭49 菊地 道春 札幌 昭31
松谷 淑 苫小牧 昭47 (平成二十二年二月二十六日現在)

夕陽会員訃報

布施 政雄氏 昭34 20・5・22 レイ氏 林 幸一氏 昭27 21・12・15
函館市田家町15の5 伊達市竹原町35の9

小野 芳弘氏 昭22 21・1・29 小泉 文人氏 昭47 21・12・17
函館市松陰町26の11 函館市日吉町2の13の13 眞紀子氏

鈴木 尚正氏 昭13 21・3・ 外崎 澄雄氏 昭30 21・12・19
お亡くなりになられたようですが、 森町鳥崎町104の32 順子氏
連絡が取れず、詳細が不明です。 七飯町大川9の25の32 佐藤 博氏 昭37 22・1・16

宮田 忠雄氏 昭27 21・3・19 尾形 猛氏 昭24 22・1・28
函館市中道2の31の1 和子氏 函館市富岡町3の32の7の101 康子氏

大橋 實氏 昭39 21・4・15 小笠原 侑氏 昭23 22・1・28

吉田 安宏氏 昭32 21・6・3 函館市花園町24の20 千江氏

田邊 康夫氏 昭30 21・11・18 新明 謙治氏 昭13 22・2・2
滝川市泉町1の13の28 函館市深堀町27の1 愛子氏

西村 清氏 昭30 21・12・2 茅野 靖雄氏 昭35 22・2・4

七飯町大川4の20の7 礼子氏 函館市日吉町4の7の32 有子氏

大室 省平氏 昭32 21・12・8 公人氏

松井 昭一氏 昭24 21・12・13 ユキ子氏
函館市赤川1の35の11

(平成二十二年二月二十六日現在)



前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の〇印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

次の四段階になっております。
①大正年代の卒業生 五千元

②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万元

③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円

④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報二〇〇号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、『五稜郭の夜景』を取り上げてみました。

現在、五稜郭では、「箱館奉行所」復元工事が進行中です。今年の六月下旬の完成予定で、現在、九割近くができあがってきています。幕末の箱館奉行所は、完成して七年で取り壊されました。それを考えると復元後の奉行所の方が長寿になるでしょう。

そういう意味では、歴史とロマンの街にふさわしい建築物になると思っております。

◆夕陽会報は今回で二〇〇号になりました。会長が巻頭言にも書かれておりますが、昭和十三年十二月三十日に同窓会報の第一号が発行されました。七十年あまりの歴史を経て、会報二〇〇号を発行することができました。

これからも会報の発行を続けて参りますので、お気づきの点がございましたら、情宜部までお願いいたします。

二〇〇号発行にしまして、会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

(情宜部長 伊勢 昭記 昭49卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

夕陽会専用

電話番号(0138)34-55220

FAX番号(0138)34-55220

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)